

人類学者

核心対談

ブリツカー賞建築家

中沢新一×伊東豊雄

日本人が失ってはいけない場所が、
巨大な建物に破壊されようとしている。
いま神宮の杜で何が起きているのか。
新国立競技場の真実に迫る

東京オリンピックピック

欠陥だらけの新国立競技場
街の景色はここまで変わる

首都高入り口

どこへ行ってもこの「異物」から逃れられない

明治記念館側にある首都高4号新宿線の入り口付近。左に並んだ木々と比べても、新スタジアムの高さが見て取れる。この圧迫感では都民の散歩コースにすらならないだろう



Before



After

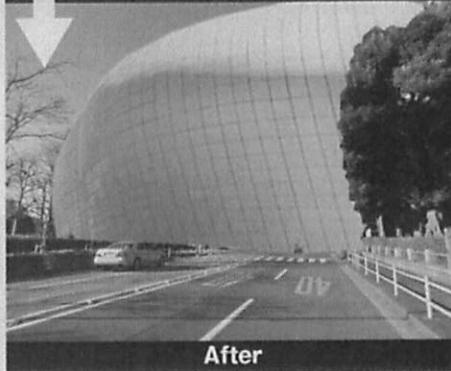
日本青年館

外苑の伝統ある複合施設も容赦なく呑み込む

79年の開館以来、テレビ番組「8時だよ!全員集合」の公開放送やコンサートホールとして使われてきた日本青年館。15年に営業が終了し、移転することが決まっている



Before



After

東京体育館

高くそびえる新スタジアムがおおいかぶさる

千駄ヶ谷駅から東京体育館を見た景色。高さ約30メートルある東京体育館だが、70メートルに達する新国立競技場が背後に建つと、まるで小屋のように見えてしまう



Before



After

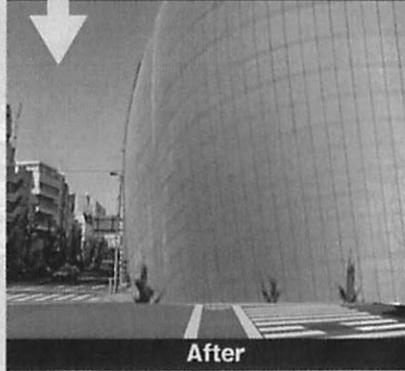
明治公園

都内有数の憩いの場が消えて

64年の東京オリンピック開催にあわせて開園した明治公園は、競技場の拡張のために移転される。所狭しと露店が並びフリーマーケットが移転後も行われるかは不明だ



Before



After

神宮の杜が新国立競技場に「食べられて」しまう

上の4組の比較写真を見てほしい。休日には大規模フリーマーケットで賑わい、都民の散歩コースになっていた明治公園が跡形もなく消え去り、そこに巨大な壁が現れる。または、日本の室内スポーツの聖地であり、メインアリーナで64年の東京五輪の体操競技が行われた東京体育館は背後に出現した山のような物体に呑み込まれ、その存在感を完全に失ってしまう。

これらは、2020年東京オリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場が今の計画案で完成したら、どれほど街の景色が変貌するかをシミュレーションしたものだ。建築家コノミストの森山高至氏が作成し、話題を呼んでいる。巨大スタジアムがどれほど街を圧迫する建築物であるか、一目瞭然と分かるだろう。

新国立競技場のデザインを手がけたのは英国在住のイラク人建築家ザハ・ハディド氏。いま、このザハ案が首都東京の景色をブチ壊してしまうと、建築家のみならず、都民を巻き込んだ反対運動が起こり始めている。

森山氏が語る。

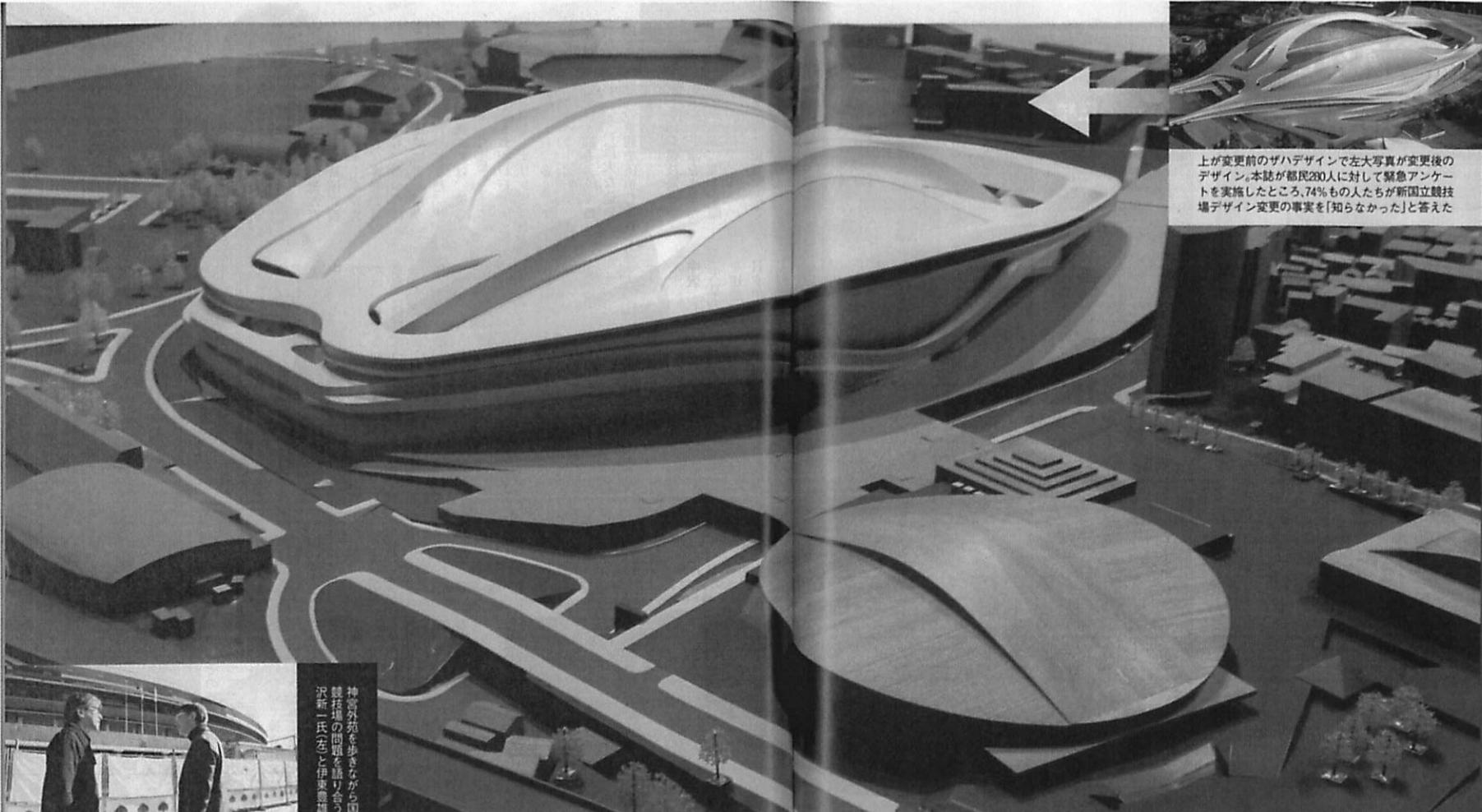
「写真をご覧になれば分かるように、新国立競技場が建てば、神宮外苑は景観もその存在意義も完全に損なわれます。国民はその事実にきちんと目を向けるべきです。ザハ案は上空から見えるデザインの上からばかり重視していて、人の目線からスタジアムを見たときの印象を考慮していない。歩行者からすれば、ザハのデザインはこんなにも奇妙に映るものなんです」

さらに、新国立競技場にはデザイン面だけでなく、予算面でも問題が持ち上がっている。ザハ案が新国立競技場の正式デザインに決まった2012年11月時点の建設予算は、約1300億円。しかし、現在公表されている予算額は1692億円に達している。着工前にして、すでに当初の予定を400億円近くもオーバーしているのだ。

巨大すぎるデザインに、莫大な予算。このまま新国立競技場の建設が進んでいいのか。人類学者の中沢新一氏と、昨年「建築界のノーベル賞」とも言われるブリツカー賞を受賞し、新国立競技場のデザインコンペにも参加した建築家の伊東豊雄氏が、次ページからその問題点をとことん語り合う。

主役は建て物ではなく人間であるべきだ

上が変更前のザハデザインで左大写真が変更後のデザイン。本誌が都民200人に対して緊急アンケートを実施したところ、74%の人たちが新国立競技場デザイン変更の事実を「知らなかった」と答えた



神宮外苑を歩きながら国立競技場の問題を語り合う中沢新一氏(左)と伊東豊雄氏

【核心対談 中沢新一×伊東豊雄】

伊東 私は新国立競技場の建設コンペに参加し、ザハ案に敗れました。「敗軍の将、兵を語らず」ということでこれまで沈黙してきましたが、新国立競技場の問題はいまきちんと話し合わなければ手遅れになるという中沢さんの呼びかけに賛同し、語る決意をしました。

中沢 昨年11月、オリンピック運営の事務方である日本スポーツ振興センターが「予算超過の問題もあり、有識者会議を開いてザハのデザインを変更した」と発表しましたが、当初は右上の写真だったものが、「尻っほ」の部分がなくなり、自転車のヘルメットのような形状(大写真)になっている。これについてはどうお考えですか。

伊東 一度コンペで決定したデザインがあとから改変されるのは、明らかに公平性を欠いています。夢のようなプランをプッシュ上げてコンペを勝ち抜き、あとで大幅に修正することが許されるなら、コンペ案は何でもありになってしまおう。

中沢 変更前と変更後のデザインを比べると、ほぼ別ものになっていますからね。変更後のデザインでは、地下鉄外苑前駅から競技場をつなぐ「橋」の部分が切り取られてしまった。利便性の面でも、変更前より悪化しているように思います。

この変更後のデザインをザハが最初のコンペで出していたら、果たして最優秀賞に選ばれたでしょうか。

伊東 非常に疑問ですね。

中沢 おかしいと言えば、予算の問題もそうですね。

伊東 2012年7月に出されたコンペの要項では、「総工費は、約1300億円程度を見込んで」と明記されています。コンペで設計図を提出する際には、提示された予算の範囲内で建設可能なデザインを練るのが当たり前です。その条件で競うのに、後から「ザハ案はもっとお金がかかります」と言われても、筋が通らない。

中沢 しかも、実際に施工に入れば、さらに目の玉の飛び出るような費用がかかる心配されています。ザハの案が選ばれたとき、私は「建築物をインパクトだけで評価する「スペクタクル建築」の時代に逆行している」と感じました。

伊東 確かにザハの案は流線形

